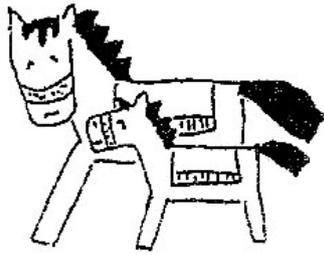


お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



令和2年 10月 NO.311

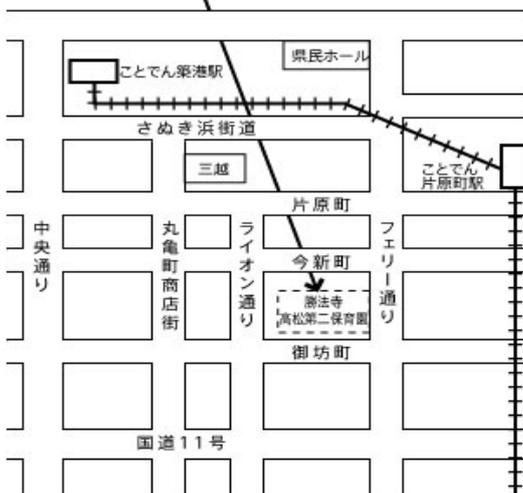
〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松第二保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
http://oumanooyako.sakura.ne.jp/

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		10月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
10月	8日 22日	木	こうさぎおはなし会 15:30～16:30	小さいお子様も楽しめる絵本や ペープサートもあります。	
10月	9日 30日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	疲労回復の整体をして、 季節のうたをうたっています。 ホッとするとときをどうぞ。	
10月	10日 24日	土	体験保育 10:00～11:00	3歳以下の園児といっしょに あそびましょう。	
10月	17日	土	香川みずぐさんの会 10:00～12:00	「北斎展」を市美術館で鑑賞します。 参加ご希望の方は、10/14(水)までに ご連絡下さい。Tel 821-5241	
10月	24日	土	おとなアート 14:00～16:00	「さつまいもの量感図」を作成します。 地中で力強く育つエネルギーを 体感しましょう。	

<p>・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して いますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土)9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	---

香川県高松市御坊町2-2  
地域子育て支援センター

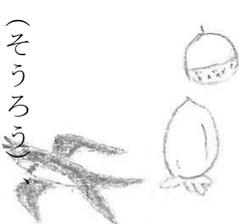


金子みずぐ全集②  
「美しい町・下」より

秋のおたより

山から町へのお便りは、  
「柿の実、栗の実、熟れ候(そろうう)  
ひよどり、鶉(つぐみ)、啼(な)き候、  
お山はまつりになり候。」

町から山へのおたよりは、  
「燕(つばめ)がみんな、去(い)に候、  
柳の葉っぱが散り候、  
さむく、さみしく、なり候。」



☆今月の内容 — 「父のバンザイ」「井の中の蛙 大海を知らず」



## 父のバンザイ



「赤々と燃えあがるオレンジ色の炎、かすかに尾を引く白い煙、選ばれた最終ランナー坂井義則君がさっそうと姿を現しました。・・・(中略)・・・微かな白煙の尾をトラックに残し、新しい日本の若さ、日本の将来を象徴するかのよ様な19歳の青年が、この一瞬に力と美を集結して、胸を張って堂々と走ります」

昭和39年10月10日、この東京オリンピック聖火入場の実況放送を、私は複雑な思いで聞いていました。聖火最終ランナー坂井義則さんと同じ年に生まれてきたのに、私は失明という不運にみまわれ、ラジオの前にぽつんと座っている。しかし、その私の心は決して打ち沈んだものではありませんでした。

「パラリンピックに参加できる」という喜びに胸膨らませて、この実況放送を聞いていたのです。

オリンピックの後には必ず身体障害者のオリンピックといわれるパラリンピックが開かれます。東京オリンピックの場合も例外ではありませんでした。昭和39年の春、このパラリンピックの国内大会の部に、岡山県からも何人かの選手が出場できるというニュースが流れました。それまでは東京オリンピックのことが報道されても、私のようなものには関係のないことと、冷めた思いで聞いていましたが、このニュースを知って以後、急に身近なものに感じられてきました。そして、5月の予選で幅跳びに優勝し、私は幸運にもパラリンピックの岡山県代表選手に選ばれました。

それからの半年間、練習を重ね、東京オリンピックの翌月、私たち選手はいよいよ岡山を出発するときがやってきました。

岡山駅のプラットホームは見送りの県の職員、学校関係者、選手の家族などでいっぱいにあふれていました。その人たちにもみくちやになりながら、私は列車に乗り込み、見送りの人たちに挨拶をしていました。いよいよ発車のベルが鳴り、今、まさに列車が動き出そうとしたその時でした。日頃は無口でおとなしい父が、突然私にも信じられないような大きな声を出したのです。

「竹内昌彦、バンザーイ！！」

最初は父1人の声でしたが、

「バンザイ」「バンザイ」

二度、三度と繰り返されるうちに、その声は数を増し、大きく膨らんで、左右に広がっていきました。その声には私は手を挙げて応えることができませんで



した。突き上げてくるものを抑えるのがやっとで、じっと下を向いていたのです。

思えば、私は終戦の年、昭和20年2月に父の赴任地である中国の天津で生まれました。しかし、すぐにやってきた敗戦の嵐の中、私の両親は2歳の兄と赤子の私を連れて、日本に引き揚げなければならなくなりました。けれども真冬の引き揚げは、まだ1歳の栄養不良の私には耐えられず、重い肺炎にかかってしまいました。そしてその時、高熱のため、右目の視力の全てと、左目の視力のほとんどを失ってしまいました。そして、僅かに残されていた光も、小学校2年生の冬、網膜はく離という病気のため、一瞬にして奪われてしまったのです。大学病院での手術の甲斐もなく、私の視力は再びかえってはきませんでした。

しかし、両親は元気でした。とりわけ父親は、私にできるだけ経験と、誰にも負けない体力をつけてやらなければと、忙しい警察官の仕事の合間を縫って、博覧会や大相撲に私を連れ出してくれました。

夏になれば岡山市内を流れる旭川や海で、私の水泳の特訓が始まりました。泳げない季節になれば、いつエンストしてもおかしくないおんぼろバイクやぶに私を乗せ、周辺の野山に連れ出してくれました。そしてわざわざ道のない藪や崖を選んで歩き回り、よじ登り、倒れている大木を乗り越え、谷川の水で喉を潤し、野いちごをつんで食べることも教えてくれました。こうして鍛えられた私の体、その我が子が本当の晴れ舞台に立ち、大勢の人たちから祝福され、岡山を発とうとしている。あのときの「バンザイ」の叫びこそ、目の見えない息子を19年間育て上げてきた父の努力の総決算ではなかったかと思うのです。

パラリンピックの後、私は受験勉強に入り、その後は東京での学生生活、母校への就職と続く中で、再び父と野山を歩き回る機会はなかなか見つかりません。

しかしあのとき、あの群集の中で、父が発した「バンザイ」の叫び声は、今も私の心の奥に鳴り響いて止むことはないのです。

#### 竹内昌彦（たけうちまさひこ）略歴

- 昭和20年2月 父親の赴任先中国天津で生まれる
- 昭和28年2月 網膜はく離により失明
- 昭和43年3月 東京教育大学教育学部特設教員養成部卒業
- 現在 岡山県立岡山盲学校講師  
社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会理事  
社会福祉法人 岡山ライトハウス理事

## ⑥ 井の中の蛙 大海を知らず ⑥

私が子供の頃、先生方からよく言われた言葉に「君たちは盲学校のことしか知らない『井の中の蛙』です。もっと世間を知らなければいけない」というのがある。だからこの言葉が嫌になった。「そんなことを言う先生の井戸だって、大海の亀からみたら、ちっぽけなものではありませんか」と憎まれ口を言いたかった。

ところが、ある時ラジオを聴いていてはっとした。永六輔さんが「実は『井の中の蛙 大海を知らず』には続きがあるんですよ。本当は『井の中の蛙 大海を知らず。されど空の高さを知る』というのが付いているのです」と言われた。

そうか、物事を広く知ることはできなくても、ものの本質というか、奥行きというか、そういう大切なことは知ることができるということだと教えられてうれしくなった。

「目が見えなくてよかつと思うことはありませんか」とよく聞かれる。私は「2つあります」と答えることにしている。

その1つは、物事を深く考える時、視覚はいらないということ。誰でも瞑想する時は目をつぶる。目からの刺激が考えることを邪魔するからだ。達磨大師も宮本武蔵も仏教や剣の本質を見極めようとした時、小さなお堂や洞穴にこもって目からの刺激を絶ち、その課題に迫ったのである。

もう1つは、この年になっても堂々と女の人と手をつないで歩けることだ。反抗期の娘は父親と手なんかつないでくれない。ところが私の娘は、いつでも私の手を引いてどこへでも連れて行ってくれる。目が見えない父親の特権である。

人は目からの感覚を一番大切にしているように思う。高い山に登ったとき、「あれ、海が見える！」「向こうに見えるのが〇〇山だ」「我が家はあのあたりかな？」などと言って景色を楽しむ。それはすばらしいことだが、その後に1分間でいいから目をつむってみてほしい。とたんに今まで気づかなかった谷川の水音が足元から聞こえてくるかもしれない。そよ風に揺られてこすれる木々の音が聞こえるかもしれない。ほのかな花や若葉の香が漂ってくるかもしれない。せっかく備わっているいろいろな感覚をフルに活用して、より豊かな人生を送るようお勧めしたい。